

Step 3

全体指導計画

各校区で小中9年間の全体指導計画を作成しましょう。

すべての中学校区ごとで地域性があることから、各学校で全体指導計画を作成する必要があります。それぞれの中学校区で、学年の中心的な取組を整理してみましょう。

また、校区に2つ以上の小学校がある場合は、同じ学年でも異なる取組で子どもの成長をめざしている場合もあります。子どもたちの学びの環境をよりよいものにするために、学年間・校種間を滑らかに、すべての子どもたちに無理なく、効果的にするために各中学校区として連携することが大切です。

就学前の取組

社会的・職業的自立(進学・就職など)

校種	小学校			中学校		
	低学年	中学年	高学年	1年	2年	3年
発達段階	基盤・態度 形成期			現実的体験 探究期		社会とつながる 移行期
接続している社会の広がり	身近な家庭とともに (家庭での会話・集団生活への参加)			社会の一員としての自覚		将来の生き方や進路への希望
獲得目標	知識・習慣として定着			社会で実践		生き方として活用
きめる	自分の力に自信を持ち、やりたいことを選んでいくことができる			多様な職業についての興味・関心を高め、理解を深める中で、職場体験先を主体的に決めることができる		多様な進路と可能性を見通した中から、進路選択ができる
わかる	自分の大切なことを認識できる 要不要を判断し、整理できる			身近な大人の話の中から「なるほど」を見つけることができ、自分の力として吸収できる。		科学的・論理的な判断ができ、様々な出来事の本質を見抜ける 多くの情報の中から、必要なものを選択し活用できる
えがく	できることを増やし、自己有用感を高める 自己の役割を考えることができる			やってみようことを計画し、準備に何が必要か考える 主体的に行動の先にあるものを想像し、進退を判断できる		多彩な職業への道を見通すことができる
つながる	自分らしさや、友だちらしさを理解できる 身近な人のあたたかさに気づき、感謝できる			地域行事などで地域の人とつながることができる 年上や年下の人とつながることができる		広い社会の中で多くの人とつながり、多様な価値観を身につけることができる 自他を尊重できる人間関係づくりができる
チャレンジ	身近な人に自分のことを知ってもらおうと働きかけることができる			興味・関心を増やし、必要な準備をしてから、やってみよう 失敗をおそれず、そこから学ぶことができる		自分の可能性を高めるために、チャレンジできる

クラスの中の自分の役割
(つながる・えがく)
班活動や学級活動を円滑にするために役割分担を決めて、一人ひとりが役割を果たすようにしていることに感謝できるように、自主的に役割を担えることをめざす。
おわりの会等で係からの連絡の時間を設けることや、遠足等の行事で係を分担し助け合っ活動する場を積極的に準備する。

1/2成人式
(つながる・えがく・チャレンジ)
将来の夢をえがくために、自分の成長を振り返る。保護者や身近な大人から昔の自分についてインタビューをして成長を実感する。同時に、支えられてきたことを感謝し、作文にまとめ発表し、保護者の前で発表し合う。
発表に向けて、国語で十分に「書き表す」練習を行い、「伝えたいことを受け止め合う」喜びに気づくことを大切に。
高学年に向かう前に、自分のことを出し合えるつながりをつくる。

キッズマート
(つながる・わかる・チャレンジ)
通い慣れた商店街でキッズマートを営業させてもらう。商品を考え、作成し、値段をきめ、材料を仕入れる。算数や社会、図工の時間で学んだことをすべて使わなければならない。そのうち子どもたちはポスターやチラシ作りにより自発的にアイデアを出し合う。
やるのがたくさんあるので、役割分担もお互いの得意分野を出し合っ行う。

自分と向き合う職業調べ
(つながる・わかる・えがく)
中学2年生で行う「職場体験学習」をより効果のあるものにするため、しっかりと将来をえがき、なぜやりたいと思ったのかについて考えることから始める。また、職種幅を広げるために、適性から見た職種について調べてみることで、新たな自分の可能性に気づく。
また、その職種に必要な資格や、どれだけの就業時間や賃金なのかを知り、高校卒業後の自分について考える機会をつくる。

職場体験学習
(つながる・きめる・えがく・チャレンジ)
希望する職種を決めたら、履歴書を作成し、受け入れてもらえるように依頼していく。あいさつの仕方や名刺を作成して渡すなどのソーシャルスキルを身につける。練習はクラスの中でロールプレイで繰り返してみる。
複数日体験させていただけの事業所が決まれば、体験までに与えられた課題をこなし、本番の日を迎える。
体験を終えれば、事業所にお礼状を出し、報告冊子を作成し、報告会を行い、自分の体験した職種以外のものについても知り職種幅を広げる。また、文化祭などで後輩たちに自分たちの経験を伝える場をつくることで、振り返りの機会を増やすと共に後輩には身近な将来をえがくモデル像と出会う。

自分史・進路決定
(つながる・わかる・きめる・えがく・チャレンジ)
多くの生徒が進学をするが、早ければ人生最後の卒業式を迎えることになる。幼い頃から、つながりを深め合ってきた仲間と過ごせる最後の一年になる。それぞれが自分で決めた進路をめざすのだが、様々な違いから同じ道を進むことは少ない。
そのような中で、自分の進路を決定するために自分の人生の通過点を「自分史」を書くことで振り返る。教職員はモデルになるべく「自分史」を語る。生徒たちも自分の進路決定に至るまで、決めた進路、将来の夢を自分史に整理し、仲間に伝えることで残りの中学校生活を支え合うことを確認し合う。
すべての生徒たちが自信を持って進路を語り合うためにも、日々の生活の中で生徒同士がつながり合う取組を行うとともに、互いの違いを受け止め合う取組を大切にしていきたい。自立とともに、社会の参画者となるために支え合うことのぬくもりをしっかりと感じて卒業することをめざす。